学びの場 只見町

信州大学 古民家調査

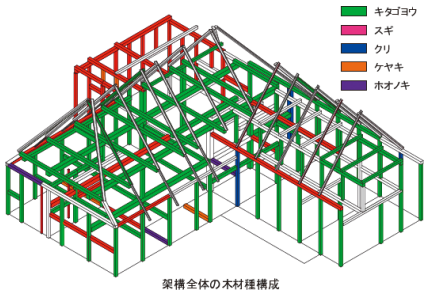
信州大学教育学部 森林生態学研究室 教授
井田 秀行

自宅の裏山から（長野県飯山市）。背景の家屋が自宅。

私は只見で、古民家の木材が何の木で作られて、その木がどこから調達されてきたのか、ということを明らかにする研究を、信州大学工学部の土本俊和教授の研究室とともに行っています。研究対象となる貴重な古民家が只見には１５０棟ほどあるため、平成２７（２０１５）年から毎年、年に数回お邪魔しています。

調査でわかったこと

この６年間の調査で、町内の山々にある五葉松（キタゴヨウ）が、民家の柱や梁などにたくさん使われていることがわかりました。皆さまにとっては当たり前で普通のことかもしれませんが、五葉松を建材として利用する文化がこれだけ確認された地域は他にありません。只見独特の自然と人の関わりの地域文化として世界に誇れることだと言えます。



木材の種類を色分けした古民家の骨組み

なぜ古民家を調べるのか？

木材や茅といった里山の資源をうまく利用した知恵を埋もれさせずに、これから先も役立てるようにするためです。気候がおかしくなってきている今日、できるだけ自然への負荷を減らした暮らしが求められてきています。昔ながらのやり方は手間も時間もかかるけれど、自然に負荷がかかることはほとんどありません。そう言い切れるのは私自身も古民家に住み、昔の知恵の奥深さを日々体感しているからです。

里山の資源を再び利用するには土地所有者の問題など制度的な改革が必要である一方、古民家の存在価値を科学的に示し、多くの人にそのことを理解してもらう必要があります。古い建物ゆえに歴史的文化財という価値だけではもったいないのです。只見での調査を通じて私は、自然と人の関わりを科学的に紐解くことの大切さをより強く感じるようになりました。

学生たちの貴重な学び場としても

只見では学生の卒業研究や、講義の一環で野外実習も行っています。これまで数十人の学生たちが、この地の自然と人の関わりを学んできました。その際お邪魔したお宅では、決まってお茶やお菓子でもてなしていただき、本当に感謝しております。一方で、学生が夜騒いだり、物を壊してしまったりと、ご迷惑をかけたこともしばしばです。時には温かな目で見守っていただき、時にはお叱りを受け、いろいろな意味で多くの学びがありました。

これからもたびたびお邪魔し、皆さまにお世話になるかと存じます。何卒よろしくお願いいたします。

次頁は、現役学生および卒業生からのメッセージです。どうぞご笑覧ください。

学生実習での一コマ

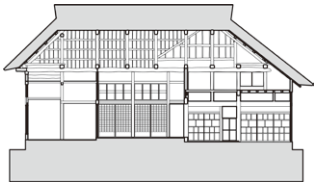
阿部 伶奈

信州大学大学院 修士２年

私は２年前から只見でお世話になっており、これまで２棟の古民家の調査をさせていただきました。調査では、まず全体の図面を作製します。そして、柱や梁の一部から木片を採取し、その木片の細胞を観察することで、その部材がいったい何の樹種でできているのか、どういった理由・背景があって、その樹種が選択されたのか、ということを調べます。今年度末に提出する修士論文では、古民家のつくりや使用木材の特徴が、同じ只見町内でも立地によってどう違うのかを見出していきたいと考えています。

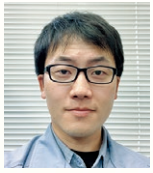
私は、この調査を通じて、只見町の皆さんの優しさに出会うことが出来ました。リーダーとして何人かの学生だけで実施した調査では数々の失態をしでかしてしまったのですが、「めげずに頑張ってね！」、「応援してるよ！」と、優しい励ましの言葉をかけていただき心が救われる思いでした。

只見町ブナセンターの方々や古民家の所有者の方々、連泊でお世話になった旅館の方々、地域の方々、皆様のご協力のおかげで、この研究は進めることが出来ております。貴重な経験の場を、本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします！



図面の一例（古民家の断面図）

古民家調査の様子



佐藤 拓真

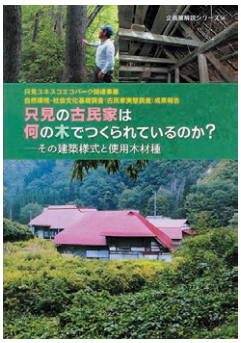
平成29（2017）年度 信州大学大学院卒業
現所属：北野建設株式会社

只見調査での思い出は、単独で一週間ほどかけてまるまる一棟の古民家の調査を行ったことです。心細さはありましたが建物一棟を全て自分の手で実測調査したのが初めてだったため、良い勉強になりました。特に、軸組全てを把握することで木造の建物がどのように組まれているのか具体的にイメージすることができたため、専門書やテキストだけでは把握しづらいところまで勉強でき、大変ためになりました。

私は現在、工事現場の現場監督として、事務所ビルやリゾートホテルなど比較的大きな建物の工事に携わっています。多くの人とともに一つの建物を作り上げる仕事ですが、粘り強く仕事に取り組めるのは只見町での調査・研究の経験があったおかげだと思います。

これからも一生懸命頑張ります。その節は大変ありがとうございました。

調査を終えて只見を後にする



調査結果をまとめた
ブックレットを
ブナセンターで
販売しています

陸川 雄太

令和元（2019）年度 信州大学大学院卒業
現所属：積水ハウスリフォーム株式会社

只見町での調査では楽しいことから大変なことまでたくさんの経験をさせていただきました。特に記憶に残っていることは虫との闘いでしょうか。空き家の調査をさせていただく際は大きなスズメバチの巣を発見してビクビクしながら作業することも何度かありましたし、調査先のお家や宿泊する宿では大量発生するカメムシと絶えず格闘していた気がします。これも今となってはいい思い出です。

調査先の方との思い出も忘れられません。３時のおやつと言って食べ切れないようなお菓子や漬物をご馳走になったり（笑）、調査が終わって帰る日に泣きそうな顔で別れを惜しんでいただいたり、今思い出しても心が温まります。

そして迷惑をかけてしまうこともありました。調査の最終日、調査が長引いてしまい、急いで片付けを済ませて長野に戻ってきたら、電気が点けっぱなしの部屋があるとの連絡……。調査に協力していただいたにも関わらず礼を欠いたことをしてしまい申し訳ない気持ちでいっぱいで、自分の確認不足を大変悔やみました。こうした経験を踏まえ、今は、お世話になった方への感謝を忘れず、相手の立場に立って丁寧な仕事をするように心がけています。私は現在、住宅のリフォームの仕事をしており、これらの経験はお客さんが住んでいるなかで工事をする住宅リフォームの仕事をする上で大いに活かされています。

只見町での調査を通じて、楽しいことから勉強になったことまでたくさんの経験をさせていただきました。その経験を活かしてこれからも頑張っていきたいと思います。お世話になった只見町の皆様、本当にありがとうございました。